

2005 年 6 月 2 日

各 位

社団法人 日本顕微鏡学会

技術功労賞受賞候補者推薦ご依頼

拝啓 時下益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は本会のため格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本会では毎年電子顕微鏡の応用技術の進歩発達に関し、秀れた功労のある方に技術功労賞を贈り、その功労を顕彰しております。

つきましては、第 10 回（2006 年度）授賞につき適当な候補者をご推薦くださるようお願い申し上げます。

ご参考までに技術功労賞規定を裏面に記載いたします。

敬具

記

- 1) 推薦書提出期限（締切日） 2005 年 7 月 11 日
- 2) 候補者推薦書 1 部同封
- 3) 送付先 〒112-0012 東京都文京区大塚 3-11-6 大塚三丁目ビル
社団法人 日本顕微鏡学会 FAX. 03-5940-7980

以上

日本顕微鏡学会 技術功労賞規定

- 第1条 本会は電子顕微鏡応用技術振興のため、日本顕微鏡学会技術功労賞を設け、本規定によって授賞する。
- 第2条 本賞は賞状及び、賞碑とする。
- 第3条 本賞は電子顕微鏡応用技術開発に功労のあった本会会員若干名に、年1回授賞する。
- 第4条 本賞の選考は別に定める日本顕微鏡学会技術功労賞選考内規により選考委員会で行う。
- 第5条 会長は4条の規定による選考委員会の報告を受け、これを理事会に諮り、受賞者を決定する。
- 第6条 本賞の授賞は通常総会で行う。
- 第7条 本賞に関する経費は、一般会計から支出する。

推 薦 理 由

No. _____

技術功労賞候補者推薦書

(2006年度)

年 月 日提出

推薦者 所属
氏 名

業績 題目				※ 部 門	① ② ③
受賞 候補 者	氏 名		所 属		
	住 所				
推 薦 理 由					

推薦理由の欄には受賞候補者の功績を客観的に、且つ具体的に記して下さい。 (裏面へ続く)

※注意 推薦部門を丸で囲んで下さい。

①装置・理論 ②生物系応用研究 ③物質系応用研究

技術功労賞受賞者および題名一覧

第 1 回 (1 9 9 6 年)

1. 勝田禎治 超高圧電子顕微鏡の技術開発
2. 宮澤七郎 試料技術の開発, 改良, 技術者の教育, 技術向上
3. 小松正雄 超高圧電子顕微鏡その場実験用試料処理装置の開発

第 2 回 (1 9 9 7 年)

4. 上野武夫 高分解能観察用試料加熱ホルダーの開発と応用
5. 近藤俊三 胎仔観察法を中心とした SEM 試料作製法の開発
6. 北見喜三 セラミックスの高分解能観察技術の開発

第 3 回 (1 9 9 8 年)

7. 吉田清和 超高電圧電顕の性能向上に関する諸装置の開発
8. 小塚芳道 研究者技術者の教育, 技術の普及, 並びに電顕等維持管理の国際的貢献
9. 会田颯武朗 試料作製技術の向上及び啓蒙と教育指導

第 4 回 (1 9 9 9 年)

10. 森口作美 超高圧電子顕微鏡の高分解能化に関する技術
11. 石橋 武 FE-TEM の物質系研究への性能向上技術の開発

第 5 回 (2 0 0 0 年)

12. 田中鏐士 材料の微細組織観察技術の開発, 初心者への教育, 技術向上
13. 坂田孝夫 電子顕微鏡用試料処理技術の開発とその応用

第 6 回 (2 0 0 1 年)

14. 北 重夫 電子顕微鏡試料作製技術及びその器具の開発と改良
15. 五十嵐芳夫 鉄鋼材料の微細組織観察技術の開発とその応用

第 7 回 (2 0 0 2 年)

16. 松井 功 電界放出型・超高圧電子顕微鏡に関する技術開発
17. 代田明平 超高分解能電子顕微鏡の実用化に関わる技術開発
18. 吉濱 勲 生物試料の電顕観察用試料作製技術の開発と応用
19. 田口英次 金属試料の電顕観察用試料作製技術の開発と応用

第 8 回 (2 0 0 3 年)

20. 井上雅夫 磁性体の磁区構造観察装置の開発およびその技術の啓蒙と指導
21. 真鍋武志 電子顕微鏡技術の向上と周辺技術の開発

第 9 回 (2 0 0 4 年)

22. 鈴木猛夫 走査電子顕微鏡用寸法標準試料の開発とその応用

第 10 回 (2 0 0 5 年)

23. 菅原健治 超高圧電子顕微鏡周辺技術の開発と技術支援
24. 倉嶋敬次 ナノ物質の分析電子顕微鏡観察技術